

科目番号	51010	分類		履修者	高度実践看護コース			学年
科目名	統合実習 (Integrated Practicum)							2
								配当シスター
								通年
担当者	○浦中 桂一 他	区分	必修	単位	17	時間数	カリキュラム 765 特定行為研修（症例数） 190（5×38行為）	
授業の概要および目標					学位授与の方針と関連			
【概 要】 クリティカル領域の患者の状況に応じて包括的健康アセスメント、治療の選択を実践し、データ評価できるようにする。また医療現場でのチーム医療のあり方としてどのような展開が可能なのか、創出的な実践に向けての力を身につける。 【目 標】 1. クリティカル領域の患者の状況について、包括的健康アセスメントができる。その際に患者に必要な検査を選択し、データ評価ができる。 2. クリティカル領域の患者に対する診察・診断結果に基づき、治療方法を選択し、その治療管理（医療処置含む）および手順書に基づき特定行為が実施できる。 3. クリティカル領域における患者自らが治療・検査を選択できるように説明する。 4. 医師や他職種と連携・協働し、チーム医療のキーパーソンとしてタイムリーかつ効果的な治療（医療処置）管理が行える役割について説明できる。 5. 診療看護師（NP）として、患者の尊厳と権利を守り、自己の実践に責任を持つことを自覚する。 6. クリティカル領域における患者への危機的状況への支援を行い、自らの課題を見出すことができる。 7. チーム医療において診療看護師（NP）の役割のあり方について自己の考えを明確にすることができる。					○ 1	クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力		
					○ 2	クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力		
					○ 3	患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力		
					○ 4	専門職としての倫理的意思決定能力		
					○ 5	高度看護実践者として、教育的経営的な視点をもつトップマネジメント能力		
					○ 6	臨床実践に潜む暗黙知を形式知へと創出する研究開発能力		
					○ 7	クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力		
授業計画								
1) 内科において診察・包括的健康アセスメントを修得する実習を総合内科・循環器内科・呼吸器内科において展開する。(各自が約5週間、3施設で行う) 2) 救命救急および集中治療を必要とする患者に応じた包括的健康アセスメントを行い、その治療方法（医療処置を含む）を修得する実習を救急科や救命救急科（ICU・HCU・救外等）において展開する。 3) 周手術期における患者に応じた包括的健康アセスメントを行い、その治療方法(医療処置を含む)を修得する実習を一般消化器外科・乳腺外科・脳神経外科・心臓血管外科・麻酔科において展開する。(各自は外科系約5週間・麻酔科2週間、主として東京医療センター、災害医療センター・東京病院の3施設で行う) 4) 臨地での実習終了後まとめを行い、学びの共有を図る。 ○学生の実習配置表、実習時の指導体制、その他の事項については実習要項を参照。 ※絶対的医行為の見学								
事前・事後学習	事前学習：当日の課題に関し参考図書の内容を予習し理解して実習に参加する。 事後学習：実習の内容を資料や参考資料、指導医師に確認する等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考にに取り組むこと。							
評価の方法	観察評価を行い、目標の達成状況から総合的に評価する(実習評価表Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)。チェックリストによる自己評価、他者評価(指導責任者、指導医、病棟師長、教員等)を実施の都度及び実習中間・最終時実施。カンファレンス、プレゼンを実施する。「特定行為区分の修得に関する経験表」に指導医の評価を受ける。 フィードバックは適宜行う。							
参考図書・資料等	適宜、紹介する。 ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。							
履修要件	課題研究以外の単位を取得していること。特定行為実技試験、縫合試験、実習前能力確認試験（筆記試験およびOSCE試験）に合格していること。							
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。							